

＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

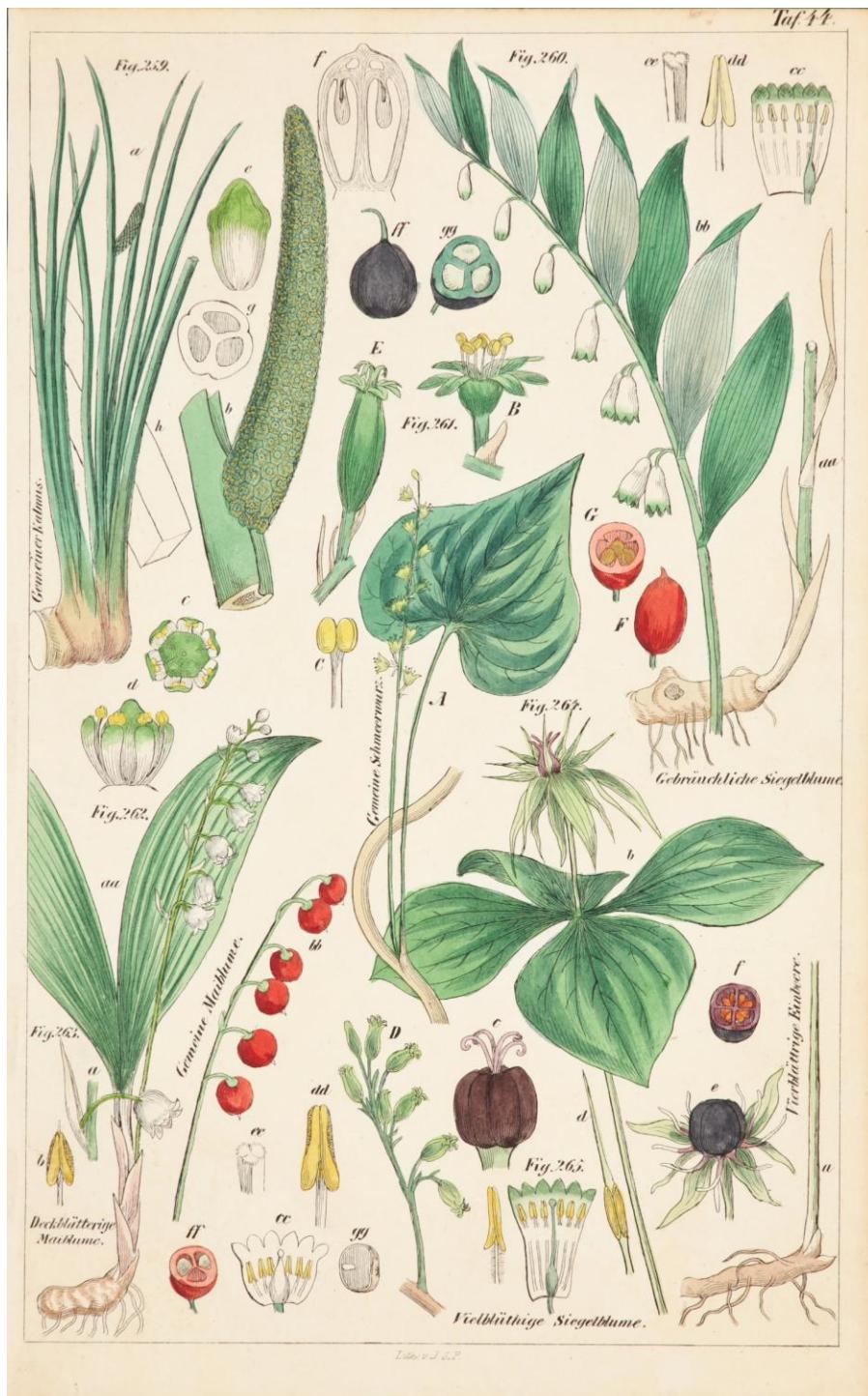
ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第78回

ユリ科



ユリ科植物とサトイモ科植物が描かれています。本画は植物学の講義に使われていたものと思われます。

左上はショウブで根を菖蒲根として鎮痛・鎮静、健胃薬として用いられます。左下はドイツスズランです。以前は根が強心配糖体を含むため強心利尿薬として用いられていましたが、毒性が強いため現在は毒草として取り扱われています。右上は茎が丸っぽいのでナルコユリに近い種でしょう。根は強壮目的に用いられます。真ん中はマイズルソウの仲間と思われます。下はツクバネソウの仲間です。九州大学薬学部でステロイドサポニン研究が行われていたことを思い出します。

Wilhelm Ludwig Petermannにより1800年代中期に描かれたものと思われます。